

University of Newcastle
Newcastle, NSW, Australia

2020/2/15-11/17

トビタテ 熊本 地域人材コース 9期

熊本大学文学部コミュニケーション情報学科 古賀愛深

熊本との関わり



記事を作成したり、SNSへの情報発信をしたり。



現地での取材。様々な業種の方とお話しました。



高校での授業の様子。特産品のPRを考えています。

熊本と関わる大きなきっかけとなったのは、旅行情報サイトを運営する学生団体でした。学生団体 Kumarism（くまりずむ）は、平成28年度熊本地震をきっかけに設立しました。実際に震源地ではないものの、同じ熊本県であることから風評被害を受けた天草地域の情報発信から始まり、のちに阿蘇や熊本市内と活動の領域を広げました。

Webサイトはもちろんのこと、InstagramやTwitter、YouTubeといったSNSでの継続的な情報発信を行い、新聞社やイベント会社、ローカルテレビ局、また県内の高校などからお声がけいただき、30名を超える仲間と多岐にわたる活動をしてきました。スローガンは「For us, For Kumamoto」。自分たちが好きなことやりたいことを通して、熊本を元気にする活動を積極的に行いました。また、高校生ライターを育成し、ふるさとを考えなおす機会をつくるアイデアを学内コンペで発表し、会場投票1位を獲得。次年度、県内4つの高校で講義を行いました。

この活動を通して、旅行や観光事業者として熊本を支えているたくさんの方々、また、それぞれの地で自分らしさを大切に生きている人々とお話し、より観光・旅行業への関心が強くなりました。

Kumarism <https://kumarism.jp>

様々な経験をさせてもらった熊本に貢献したい

その後、学生団体の活動を通して出会った複数の企業へ学生インターンとして入社。クラウドファンディングを通して、被災した事業の支援を行う会社では、現地ライターとして県内事業者へ取材に行き、ファンド募集ページの執筆を担当しました。また、熊本の消滅可能性都市で創業したITベンチャーにインターンとして入り、人材募集ページの管理やウェブライティング、ウェブデザインを学びました。これらの経験を経て、「熊本のおかげで自分は成長できた」と感じ、これからは、お世話になった熊本という地に恩返しをしたいと思うようになりました。熱い想いを持った地域の人たちに対して、その想いを叶える場や機会を提供できる存在になりたい。その思いを持ち、「地域を盛り上げるクリエイティブディレクターになる」という目標を掲げ、デザインやアート、ツーリズムを学ぶためにオーストラリアへの渡航を決めました。



他にも、地域のお祭りのブランディング、観光事業者の広告作成や地元企業への就職促進事業等にも携わりました。

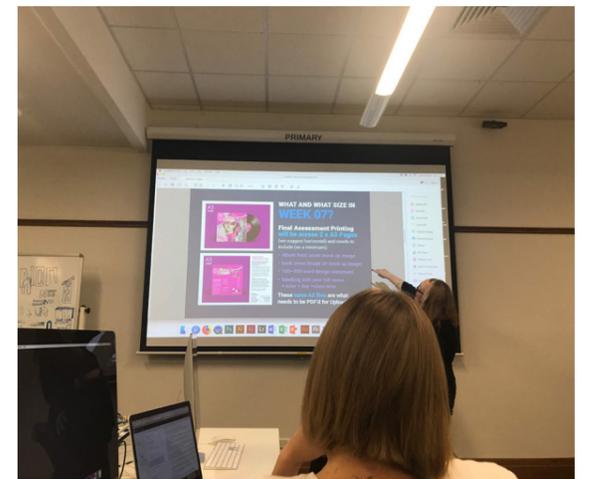
留学計画



オーストラリアでのデザイン留学を決める

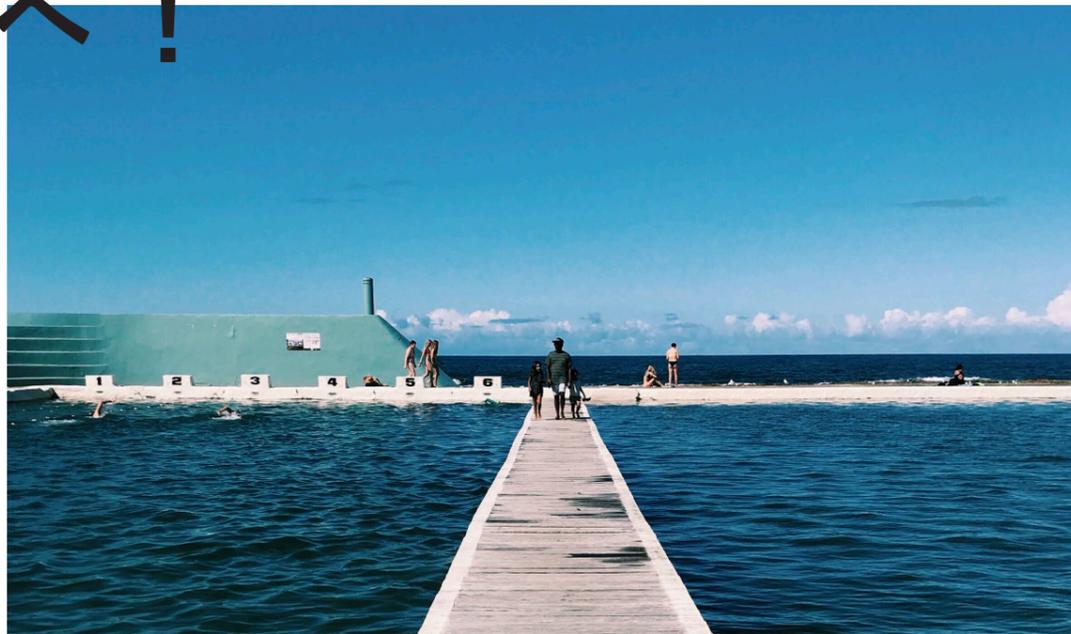
ももとは、幼少期に3年間ほど暮らしていたバンコクでの生活がきっかけで、海外のことを日本人に伝えたい、そのためにも海外の旅行情報誌の編集者になりたい、という夢を持って大学に入学しました。その後、左記の旅行情報サイトの運営に携わり、観光地での取材活動や、県内の事業者を支援する会社でのインターンの経験を通して、地域の方々がそれぞれの思いを持って自分たちで地域おこしやまちづくり活動をされている姿を目の当たりにしました。自分の暮らす地域に誇りを持って、よりよくしていこう、楽しくしよう、と奮闘する姿に感化され、自分自身も（編集者として紹介するだけでなく）実際に地域に入って活動する側になりたい、と思うようになりました。

その頃、独学で挑戦していたデザインを本気で学びたいと思うようになり、その知識を持って地域づくりに役立つことができたらと思うようになりました。デザインのスキルを身につけるためにも、クリエイティブ系のコースがあるオーストラリアのニューカッスル大学（University of Newcastle）での留学を決めました。デザインに関する学習や実践的なワークなど、豊富なカリキュラムが用意されており、オーストラリアのクリエイティブ業界で活躍するチューターのもとで学べるものでした。



目標として掲げた「地域のクリエイティブディレクター」とは、それぞれの地域が向かう方向性あるいはビジョンをつくる、あるいは地域の課題を見つけ、解決に向かい舵をきる存在、という意味です。実際に、地域の中にはいり活動をしたい、という気持ちを込めて「地域の」という表現を使いました。まだまだ物事のディレクションができるような立場ではありませんが、現在進行形で現地に入って活動しているので、この経験を通して、地域に貢献できる人材になりたいと思っています。

いざ、 留学へ！



トビタテ | ツーリズム&デザイン留学 in ニューカッスル大学

念願のオーストラリアへ渡航。熊本地震により大幅に落ち込んだ訪日観光客の取り戻しと更なる国内旅行者の増加に貢献すること、熊本の魅力を発信する取り組み、人と人を繋げる取り組みを ICT 事業を通じて支援することを目標に、留学で得た経験を熊本の観光業活性化や地域振興活動に役立てたいという思いから、熊本県の地域人材コースを選択しました。交換留学先であるニューカッスル大学では、クリエイティブ産業学科視覚コミュニケーション学部 に所属し、現役活躍中のチューターのもとでデザイン思考をはじめ、実践的にパッケージデザインや動画制作、フォトスタジオでの撮影などを行う他、現地でのフィールドワーク、Web サイトでの旅行情報サイトの更新を行いました。



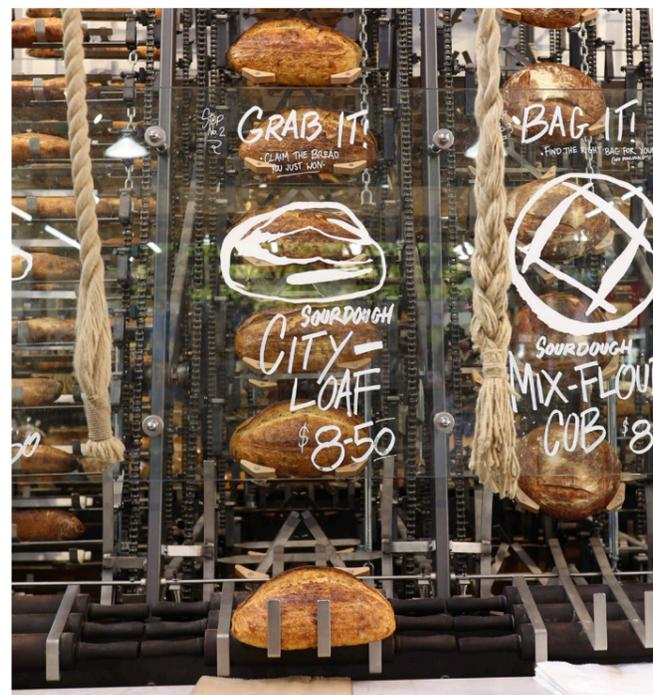
ビーチへは、キャンパスから路面電車でたったの5分。ほどよいローカルさが心地よいところでした。ちなみに、100km先のシドニーへは電車で3時間。新幹線のすごさを改めて実感しました。



優しいオーストラリア人夫婦と散歩が大好きな犬と、のびのびと生活していました。週末は一緒にファーマーズマーケットに足を運んだり、パブに行ったり、夏は家の裏庭のプールで泳いだり、冬は映画を見たりしていました。

現地で苦労した話

クラス内は、オーストラリア国籍が9割で、日本人はまったくおらず、かなりのマイノリティーな存在でした。特に、留学当初は語学面でついていけず苦労しました。初日に行われたクラスで、言葉を聞いて、イラストを描く課題が出たのですが、英語で「楕円」や「菱形」をなんとというのが分からず、とんでもなく不思議なイラストを書いてしまい、恥ずかしい思いをしました。その後、授業のフォローアップをしてもらえるクラスに入ったり、ライティングのサポートを受けたりしつつ、日本に興味のあるチューターがいたことも幸いし、クラスで発言させてもらえる機会もあり、徐々に馴染むことができました。



余談ですが...

オーストラリアでの IT の活用、環境への意識

オーストラリアは、IT の活用と環境への配慮という点で学ぶべき点がたくさんありました。特に、マイバックや、マイカップ持参が当たり前で、環境への配慮意識がとても強かったのが印象に残りました。ニューカッスルは海岸沿いの街ということもあり、ストローも紙製、竹製、ステンレス製のいずれかでプラスチックストローを使っている店舗はありませんでした。テイクアウトの袋もすべて紙製で、スーパーマーケットでは、マイバックを持参する、もしくは、店舗でリユーズできる保冷バックを買うようになっていました。

また、大型の雑貨・食料品店では無人レジが基本。大手銀行もネットバンクが当たり前。支払いは、クレジットカードもしくはQR決済で、ワンタッチでの支払いがとても楽でした。また、発祥は米国ですが、個人ドライバーと利用者をつなぐオンラインプラットフォーム Uber も画期的なサービスでした。オーストラリア国内でも類似サービスがいくつもありました。日本では、現行の法律に違反してしまうため、このサービスをフルコンディションで使うことはできないのですが、短時間雇用も生まれるうえ、無駄のないモビリティで、提供者・利用者双方にメリットのあるサービスだと思います。また、民泊の仲介サービスである Airbnb は、ひとり旅に最適。ローカルに暮らすひとびとと出会い、現地の暮らしを体感できました。日本では、利用できない IT を活用したサービスを経験できたことも大きな糧となりました。



昔、囚人が穴を掘ってつくったと言われている海のプール



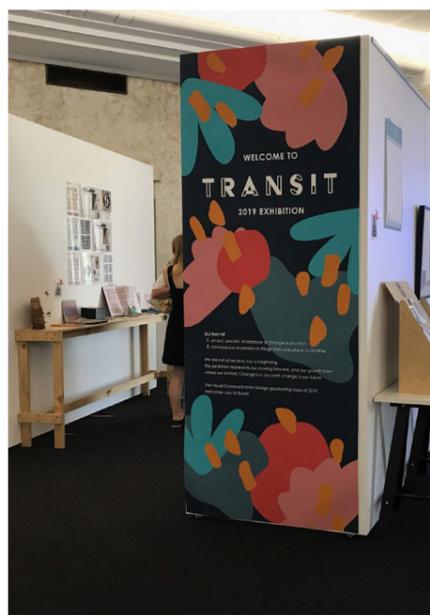
ニューカッスルの外れにあるアンティークショップ



週末は、よく小さなマーケットが開かれていました。家族で夕暮れ時をいっしょに過ごす姿が印象的でした。

成果物

ニューカッスル大学に在学中に制作したデザイン・アートワークです。



学期末の展示会

所属した学科では、クリエイティブソフト、オンライン学習コンテンツ、写真スタジオ、一眼レフ等なんでも使い放題でした。学生の創造力を全力で鍛えようとソフトもハードもサポート面が充実していました。



ブックレット制作

スイスの代表的タイポグラファー「ヤン・チョヒルト氏」についてまとめた冊子。彼のデザインしたフォント「Sabon」をベースに、強いグリッド感を意識して制作。



オリジナルフォント

ゼロからアルファベットをつくり、利用シーンに合わせたモックアップを制作。ゲストハウスやホステルのサインにピクトグラムと合わせて使えるフォント「Pictogramy」を作った。



カレンダー制作

家族にプレゼントしたいカレンダーというテーマで制作。宇宙が好きなので、それぞれの月にあわせた星座と、日付の部分では、月の位相をひとめでわかるように工夫した。



人為の影にある海洋汚染

海中のゴミ問題を「見えない場所で起きていること」、つまり「人の動作の影で起きていること」と捉え、予め作った映像に、発表時にはシャドーパフォーマンスを織り交ぜた。



人間中心工学デザイン

渡航後、はじめての課題。人間中心工学デザインについて、その歴史をまとめ、3分のナレーション付の映像を制作。動画ならではの表現を活用し、学年3位に選ばれました。



パッケージデザイン

「インスピレーションになると思うから」との前置きがあり、チューターからチョコレートのかけらが配られた。和柄を使い、日本文化の紹介も兼ねた。



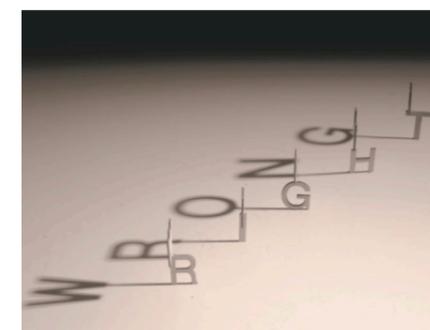
暮らしの中にある文字

身の回りにあるモノを使いアルファベットと数字を作成。ホストファザーの日曜大工グッズを撮影し、作成。空き缶の凹みやシルエットで作成する学生もいた。



プレゼンテーション

日本発祥の1枚20秒のスライド×20枚というルール付きのプレゼン形式（PechaKucha 20×20）を用い、柳宗悦が提唱した「民藝」について発表。



存在／不在

あらゆる物事には2面性があり、あるひとにとって「正しい」と感じることで、別の角度から見ると（光を当てると）「間違い」にもなることをライトニングをつかって表現。



フラットマガジン

全員に同じタイトルが与えられ、身長大のマガジンをつくるグループプロジェクト。タイトルは、「THE WANDERING EYE」。私たちのグループでは、映画のレビューを掲載。

Newcastle



海辺の街であるニューカッスルは、古くは貿易で栄えた街です。緑地公園が点在し、週末になるとアートマーケットやファーマーズマーケットが開催されます。時間にゆとりを持って、自然の中で過ごすひとびとの豊かさを感じました。

Sydney



シドニーをはじめ、各所では小さなギャラリーから大きな国立美術館まで、ほとんど入場料なし（またはドネーション）という形で入れました。また、オーストラリアでは、環境への意識が非常に高く、マーケットなどでも過剰包装はせず、素材そのままを生かしてディスプレイされていました。

Melbourne



ひとひねりされたお店が多いメルボルン。左 | セレクトショップの入り口に「Grab an orange」の文字。このオレンジを持って店内に入ると、その場でしばりたてジュースを作ってもらえます。真ん中 | クロワッサンのお店のディスプレイ。このお店では、クロワッサンを製造している姿をスケルトンの工場で見せていました。右 | 通勤途中のひとびとが集うコーヒーショップ。路地裏にある店だが、店内は活気に溢れていました。

帰国後 ..



小さな島の集落デザインカンパニーへ

留学を終え、向かった先は東シナ海に浮かぶ小さな島でした。結果、大学5年次の1年間をこちらで過ごしました。

将来、外からのひとびとを迎え入れられるような場所をつくりたいという気持ちを持っていたところ、以前訪れた鹿児島島の離島と縁あり、小さな島宿のマネージャーを任せてもらえることになりました。また、メニュー作りや商品開発、ガイドマップ、地域商社として、通販カタログのデザインを制作しています。

カフェやベーカリー、バー、 hostel といった自社店舗で島の観光を支えつつ、島の日常も大切に、島の農業や漁業を生かす商品づくりや販路の開拓もしています。小さな島であり、小さな会社であり、それ故ひとり何役も掛け持ちして生きています。ここで得た経験はどの地域にいても生かせるだろうと感じています。



島に暮らすひとびとを紹介するタブロイド誌。観光業のために切り取られ、取り繕われた誌面ではなく、ただそこにある島の日常を紹介しています。



島の幸を、製造者や生産者の思いとともに掲載。読みもののように楽しめるカタログギフト。このほかにも、観光マップや各種サービスのロゴ制作などに携わっています。

トビタテ留学 JAPAN について



留学前の事前研修の際、トビタテ留学 JAPAN のプロデューサーである船越さんが、自分の夢は「世界を平和にすること」と話されていて、それを聞いたときは、なんて大きな夢なんだろう..と思ったのですが、あたりにいる学生たちに目を向けると、地球の限りある資源の水を再循環させるための研究に没頭する高専生や、人工知能の最先端技術を学ぼうとする医学部の学生、映像制作を極める美大生、音楽を通して教育を改善しようと奮闘する教師のたまご、本場のワイナリーに修行しに行き将来ソムリエを目指す学生など、多種多様な留学計画を持ち、それぞれの分野から社会に貢献しようと奮闘する仲間の姿がありました。

彼ら彼女らの姿を見ていると、わたしたちそれぞれが社会の末端を担って、自分の分野で個々の役目を成し遂げることができたら、本当に船越さんのいう「世界を平和にする」という夢が本当に叶うのでは!と、思いました。ひとりでは到底叶えられないような大きな夢も、さまざまな価値観を持った仲間がいたり、ひたむきに努力する者を支援する仕組みがあることで、みんなでちょっとずつ大きな夢に近づいていく。そんな仲間がいるコミュニティでもあるトビタテに感謝すると共に、自分自身も、今後は支える側の人間として、若い世代に、経験をするための資金や機会をプレゼントしたい、ここでいただいた経験を次の世代に恩送りをするをひとつの目標としたい、と思いました。

また、小さな一歩ではありますが、熊本県内の店舗のトータルブランディングに関わり、店舗のロゴやショップカード、Web サイトの制作を行いました。少しずつではありますが、留学で得たことを熊本県内で恩返ししていきたいと思えます。

最後になりますが、このような貴重な機会をくださった熊本県の支援企業みなさまに感謝を申し上げます。つぎの世代へ恩送りができるように、また、お世話になった熊本へ恩返しをできるように、日々精進します。